平成22年度　第１回 静岡市文化振興ビジョン評価懇話会議事録

１　日　　時　　平成23年１月27日（木）　10時～12時

２　場　　所　　静岡市産学支援センター　６階　演習室４

３　出 席 者　　（委　員）上利会長、川口副会長、黒田委員、高岡委員、林委員
（事務局）文化振興課長、矢澤参事兼統括主幹、松永統括主幹、
髙須副主幹、永宮主事

４　傍 聴 者　　０人

５　議　　題　　静岡市文化振興ビジョンの中間評価について

６　会議内容

①開会：事務局（矢澤）

第１回静岡市文化振興ビジョン評価懇話会の開会を宣言。

なお、審議に時間をかけたいため、定例・事務的なものについては簡略化する旨を伝える。

②委嘱状の交付：事務局（矢澤）

委嘱状の交付（机上に配布済みである旨を伝える。）

③文化スポーツ部長挨拶

部長欠席のため、文化振興課長が代わって挨拶を行う。

④事務局紹介：事務局（矢澤）

⑤懇話会委員紹介：事務局（矢澤）

⑥会長、副会長選出

・事務局（矢澤）

仮議長を文化振興課長が行うことを委員に問い合わせたところ異議が無いため仮議長とする。

・仮議長

会長及び副会長の選任は委員の互選である旨を伝え、推薦を依頼。

・林委員

会長に上利委員、副会長に川口委員が適任であると推薦する。

・仮議長

他の推薦は無いか問い合わせるも無いため、会長を上利委員、副会長を川口委員に依頼する。

・上利・川口委員：了承、挨拶

・上利委員、会長席へ移動

⑦概要説明

・上利会長：事務局に説明を依頼。

・事務局（矢澤）

・本懇話会の設置要綱及び概要を説明

・本日の懇話会は委員の全員が出席しており、懇話会設置要綱第６条第２項に基づき、委員の半数以上が出席しているため、会議が成立していることを伝える。

・会議、会議録、懇話会概要を公開とすることを説明。

・傍聴について説明（本日傍聴なし）

・会議録署名人を指名（上利会長及び高岡委員）

・上利会長：質問の有無の確認

・委員：質問・意見等無し

⑧議題『静岡市文化振興ビジョンの中間評価について』

・上利会長：事務局に説明を依頼

・事務局（矢澤）

資料②評価シートの記載内容について説明。

目標１『しずおかの風土につちかわれた歴史と文化の伝承』中、

『１　文化財の保護、活用の推進』、『２　伝統ある文化の伝承の支援』の評価について説明。

・上利会長：各委員に意見・評価を問う。

・林委員

評価シート中『市民に身近な生涯学習施設等について…』だが、清水区の生涯学習施設の指定管理者制度導入については、講座展開型という施設運営が今よりも必要になってくると思う。また将来に向けての人材育成が必要になっていくのではないか。

・事務局（矢澤）

旧静岡市では生涯学習施設への指定管理者制度を導入済み。貸館業務と各事業を実施しているが、指定管理者の募集要項に『地域に即した事業展開を図ること』と記載してあり、それに見合った提案をした事業者を選定している。人材育成については、継続的に実施してもらえると考えている。

・林委員

清水区では旧静岡市のように集約的な生涯学習施設ではなく、各地区に分散しているので人材育成は難しいのではないか。

・事務局（矢澤）

生涯学習推進課では、１館ごとを指定管理者に任せる訳ではなく、清水区の生涯学習センターを一括して指定管理者に任せるという方向で検討している。

・上利会長

駿河区の『きてこ』の指定管理者制度移行時の利用者団体の運営委員として関わっていたが、より一層の地区住民や利用者との関係作りが大切だと思っている。

・川口副会長

評価として『事業評価の方法の検討が必要』とあるが、マニュアル的なものがあるのか。また市として評価方法を考えてあるのか。内容によっては評価ができないものもあると思うが。

・事務局（矢澤）

点数付け、ランク付けなどの評価方法があるとは思うが、どれが普通で、それより、良い・悪いという評価を数的なもので表現するのが文化事業やこのビジョンでは難しかったので、今回は文言だけの評価とした。

H26 年度までが本ビジョンの期間となり、最終的には総合評価が必要となる。その際は、評価方法を今一度検討させていただきたい。

・川口副会長

公共事業では費用対効果という経済評価を行うが、文化にとって必ずしもそれが良いとは思わない。採算を考えると文化事業はやらなくても良いということになってしまう。今回の評価では、少しゆるく考えてもよいのではないか。

・事務局（矢澤）

他市の事例をみても文化事業の評価はあまり行っていない。事務局としても苦慮した点である。

・上利会長

資料⑦進捗状況調査票をみると比較的実態を掴むことができる。事業番号（11102）では、こういうことを、何回やった等、具体的な事業名が入っており、何をやろうとしているかがよくわかる。逆に事業番号（11204）等は、抽象的な表現となっており何をやっているのかが良く分からない。

評価方法を点数制にするのは反対だが、実態として、今取り組んでいるものがわかるようなものを資料に取り込んでおけば評価ができる。

また資料中、課によって評価が大きく違っている。評価方法、記載方法などが統一できればより良くなると思う。

・林委員

事業内容の表現が統一されていない。分かりやすいものと分かりにくいものが混在しているので整理が必要。

・上利会長

事業内容に書いてある抽象的なことをそのまま、評価欄に記載しても良く分からない。もっと明確にしてもらいたい。

・高岡委員

登呂博物館のリニューアルに際し演劇の発表を行ったが、その中で、小学生が、自分の通っている小学校の地下に遺跡があることを知らない。学校教育で教えていない。戦後、登呂遺跡の発掘に携わってきた方々の体験談のビデオを活用できないか。

地域住民が、自分が暮らしているところがそういう地域であることを再認識し、考古学に興味を持ち始めている状況がある。

文化振興は決められたパターンではなく、新しい試みをしていくべきだと思う。

そういったことで豊かなまちになるのではないかと思う。

・事務局（文化振興課長）

きっかけ作りや、協働の場を作ることは重要だと思っている。興味を引き付ける仕組み作りを考えたい。

・上利会長

文化振興とは決められたパターンだけでは無く、常に新しい試みコラボレーションが必要。その新しい試みの中で文化の風が吹く。

経済効果に還元できない、失敗もありうる、そこを組み込んだ展開をお願いしたい。ただ、それを文化振興課だけに依頼すると展開するのが難しいので、さらにそれを具体化するために何をすればよいかということを考えていただきたい。難しいことではあるが、ぜひお願いしたい点である。

・高岡委員

こういう成果が得られるという結果が見えるものではなく、先々成果があるかもしれない、あるんじゃないか程度のものも応援してほしい。

・上利会長

必要があるから事業を行うのではなく『こういうことをやってみたらどうか』というような『プラス　アルファ』をつくっていくことが文化事業の特色ではないか。

・黒田委員

事業番号（12101）文化財のデータベース化は閲覧できるのか。他のことについても、データベース化をどんどん進めていってもらいたい。今は子どもでも、インターネットを使う。子どもの興味のきっかけ作りになる。発見することの面白さを感じてほしい。費用のかかることでも頑張ってやっていっていただきたい。

・事務局（矢澤）

情報を集め、データベース化した状態。最終的には公開となるとは思うが、活用方法等は文化財課が検討している。

・上利会長

事業番号（21204）、（23101）のようなデータベース化でも未実施のものがあるが、進まない理由はあるのか。

・事務局（矢澤）

人材のデータベース化は個人情報の関係で公開が難しい。

・上利会長

行政でデータベース化を行っても公開ができないということか。

・事務局（矢澤）

そういうことです。

・川口副会長

人材については更新作業にとても手間がかかる。また目的をはっきりさせておかないと、データベース化しても使われない危険がある。費用と時間がかかるわりには効果が少ない場合が多い。ただ、デジタル化といわれる今日では必要とされるものなので悩ましい問題。

文化財に関しては時間的な変化が少ないので継続して行っていただきたい。

・上利会長

まとめるが『その後の活用方法などが課題となる』という部分が重要ということでよいか。

・林委員

地域における伝統芸能を小中学生に伝えるのは重要なことだが、地域にいる高齢者が小中学生に教えるということだけでは中間層が抜けている。中間層へどのようにアプローチしていくかも大切なことである。

・上利会長

続いて目標２について、事務局説明をお願いします。

・事務局（矢澤）

目標２『地域性豊かな市民文化の創造』中、

『１　多彩な市民文化活動の支援』、『２　文化活動の環境整備』、『３　地域資源を生かした文化事業の充実』の評価について説明。

・上利会長

各委員に意見・評価を問う。

・黒田委員

事業番号（22309）の利用者数は何を指しているか

・事務局

即答できないので担当課に確認をとります。

・高岡委員

事業番号（22309）クリエーターとは何を指しているか、範囲が狭いように思える。演劇関係者からすると自分たちには関係ないように感じている。立地条件の良いところにあるので、もっと活用される可能性があるはず。

また市文化協会への演劇分野から加入者は少数なので機能していない状況にある。このままで良いのかと懸念している。

・林委員

市文化協会に考え方の違いから入会を控えている方がいるので、今後のためにも検討が必要と思う。

文化振興財団の補助金制度について見直しや整備が必要と思う。事業実施者としては良いものをつくりたいので県外から関係者を集めているが、これでは補助金が外部に流出してしまう。市内の方でもできるように人材の育成・支援が必要。

・上利会長

行政主導で文化づくりを引っ張る時代から、行政は活動を支援するといった時代になっている。そこで、補助内容の見直しや有り方について考えることが必要になってくる。

静岡県が文化振興の目標『みる・つくる』に『ささえる』ということを追加した。静岡市も『ささえる』という視点の展開が必要ではないか。

事業番号（22103）、（22104）、（22305）は住民の意見をどう反映しているかと

いう項目だが進捗状況には同じことが記載されている。アンケートをとるだけではなく、住民意見をどのように反映していくか、ニーズをどう把握するか、もっと工夫する必要がある。

・高岡委員

アンケートの取り方、集約、公開・開示、次への活かし方などの工夫が重要。そして連続的に実施することが必要になってくる。

・上利会長

行政だけでは難しい問題には市民の知恵も必要。そのためには協働ということが必要になってくる。

・事務局（文化振興課長）

アンケートは重要なこと。目的を明確にした質問項目の設定が重要。

・黒田委員

事業番号（21201）、（21203）について、AOI の事業は評価できるが音楽関係の事業のみなのでそれ以外はどうなっているのか。また事業番号（22105）は舞台芸術だけに留まっている。美術館の開館もあり美術と舞台芸術の融合など、ジャンルの偏りが無いよう広く実施してほしい。

・事務局（矢澤）

ご指摘のとおり、AOI の事業が主体となっている。今年度、静岡市美術館がオープンしたことで、美術に関しては中心となって事業展開を新たに図れると思う。

・上利会長

続いて目標３について、事務局説明をお願いします。

・事務局（矢澤）

目標３『しずおか文化の発信と交流』中、

『１　全国へ、世界へ地域文化を発信する機会の整備』、『２　文化交流事業の推進』の評価について説明。

・高岡委員

大道芸が全く触れられていない。所管課は文化振興課では無いが大道芸を文化とは考えていないということか。世界への発信という意味では、パフォーマーの中ではかなり知られており、またイベントとしても国内的にかなり認知されていると思うが。

・事務局（矢澤）

ビジョン策定時、各課に調査をしたが回答が無く、その後の回答もない。我々も気がつかなかった。

・高岡委員

大道芸事務局も昨年位から『アートだ。』ということを強く言い始めている。

・上利会長

国内外から多くの方が来静しているので、もっとアピールしてもよいのではないか。プラスの評価ができることなので組み込んでいただきたい。

・高岡委員
国文祭実施後の文化団体同士の共同事業や効果にはどんなものがあるか。
・事務局（矢澤）
日本舞踊団体が岡山国文祭に参加、市芸術祭への参加者の増加など効果がでている。
・川口副会長
姉妹都市や友好都市との国際交流をどのように展開していくのか。もっとレベルを上げて展開していくべきではないかと思うが何か予定はあるのか。
・事務局（矢澤）
国際交流について文化振興課が主体となって行う予定はない。
・高岡委員
昨年の大道芸の時期にオマハ市の学生達が来ていたので、事業の成果が何も無いということではないと思うが。
・川口副会長
文化と観光とビジネスを結び付けることがこれからの時代大切なこと。
・事務局（文化振興課長）
せっかくの観光資源を活用できるように検討していきたい。
・上利会長
大学でも海外へ留学する生徒が減ってきており、内向きになっている傾向がある。こういう時代だからこそ、海外との交流の中で、自分たちを刺激していかなければならない。現在、文化交流事業が実施されていないとのことだが、せっかく姉妹都市や友好都市があるのだから、何らかの事業を実施してほしい。
・林委員
今一度、姉妹都市とのパイプを見直すべきではないか。
・川口副会長
観光事業を充実させる必要がある。
・林委員
観光事業を充実するにあたり、静岡市は駅周辺の道案内など利用者に優しくない。特に大道芸開催時などは注意してほしい。
・上利会長
静岡市だけでなく日本全体に言えることかもしれない。韓国などは、国策として観光に力を入れている。タイアップ等これからは必要なこと。

・上利会長
次に全体をとおしての評価について事務局説明をお願いします。
・事務局（矢澤）
全体評価について説明。
・上利会長：ご意見をお願いします。
・黒田委員
講座の参加率、イベントの鑑賞率、アンケートの満足度など、市民の声が反映

されている資料がない。行政の一方的な報告になっていると感じている。

・上利会長

進捗状況の個別事業をみると多くの事業があり、ある程度は数字的な状況もわかる。ただ、１つの課においても複数の事業がありそれぞれ多くの資料がある。

資料をすべて出すとなれば膨大な量になってしまい、肝心なものが埋もれてしまう可能性が高い。そこで本懇話会で集約的な意見を出すということになると思うが意見をうかがいたい。

・川口副会長

評価シートを作るための資料等も積極的に HP に載せればいいのではないか。利用したい人が情報をとりだせるような環境を作ればよい。これこそがデータベースだと思う。

市民は自分の関心ごとに対して、どれだけ情報を集められるかということに満足感を得る。

・事務局（矢澤）

文化振興課の所管施設・事業であれば情報提供は可能であるが、他課の事業になると全てというわけにはいかない。アンケート等実施の有無も不明である。結果の表現方法も違うので簡単にはいかなくなる。

・川口副会長

施設・事業・利用者などの情報を積極的に情報公開してほしい。

・林委員

データベース化も重要だが、庁内の他課にこのビジョンをどのように浸透させていくか、どのようにとらえていくかも重要な点。

芸術文化、伝統文化、地域文化、生活文化など同じ文化でも、いろいろな使い方をしており、それぞれの差を見つけるのが難しい。

実施計画に記載されている事業内容・概要が分かりにくいので整理が必要。

・上利会長

市民の意見を集めた情報の報告義務の相手は、委員会というよりまず市民であるので、市民に対する報告の一般的な有り方を工夫しなければ、委員会に出席していない方は分からない。インターネットを使って、その都度の皆さんの意見を反映しながら、行政としてはこう考えるということが、公開されていくシステムを作ることが必要。

文化振興ビジョンを策定し、それが各課、生涯学習施設、図書館などへ、この理念がどのように伝わっていったのか、伝わっているのかが重要。

・林委員

音楽館などの外部施設の事業内容や事業の評価が抽象的すぎる。

・上利会長

各課に問い合わせた結果がこうなっている。受け取る課によって、捉え方に温度差があるのではないか。特に離れれば離れるほど、そこが心配な点になっている。

事務局（文化振興課長）

ビジョン策定後、資料等の配布、毎年の進捗状況の調査は行っているが、内容については各課に任せている状態である。

・上利会長

ビジョンはこういうことをしたらどうでしょうかという提案。それを共有することが重要。上位解脱ではなく、こういうふうにして、もっと良くしたいというふうに考えたので理解してほしいということを伝えればよいのではないか。

・林委員

女性政策に携わったことがあるが、行動計画を策定する時に庁内の関係各課に集まってもらい推進体制を整えた。ビジョンではやりきれないのかもしれないが、そうしないと全庁的には伝わらない。

・高岡委員

行政だけの問題ではなく、文化団体や文化関係者にも責任はあると思う。演劇協会では、国文祭を一過性のもので終わらせないために目標を立て実施し、現在も継続している。

文化団体とは何かという問題がある。一つは社会教育的な意味で、それをやること自体を楽しむというもの。また一方で、質的に高める、伸ばしていくという芸術家に関するもの。これをどこかで区分けしなければならないが、静岡市の文化振興という意味では両面が必要。さらに、それを観て楽しむという方もいる。それぞれの目標みたいなものがあっても良いのではないかと思う。

・上利会長

行政が事業を行う場合、平等であることは必要だが、観光や商店との結び付き、AOI の地域の人たちを育てる事業など、特質を持たせたり、顔作りのようなものも行う必要もある。ただこれを文化振興課だけでやるのは困難だろう。そこで補助的なシステムが必要ではないのかと思う。

・林委員

難しいとは思うが、ビジョンに謳っている以上、行政としては求められるはず。

・川口副会長

文化活動は流動的で評価し難い。ただ、こういう場で活発な意見がでるのが重要。事務局が変にまとめようとするのには無理があるのではないか。そこで、各施設や補助金を受けている団体等に義務として、実施事業内容や事業評価を HP で情報公表させたらよいと思う。そして行政はその情報を集めるのではなく、そちらを見てくださいという案内をすればよいのではないか。インターネットの普及でそれが可能となっている。

・上利会長

評価を単年度で行う場合、途中段階のものの評価が低くなる。表に出てこない下支えのような部分が重要なのに、目に見える実績だけを評価すると事業自体が限られ、文化の芽が摘まれてしまう。実績を目指すという考えは文化にとって一番まずいところと思う。ビジョンの策定、中間評価、最終評価と制度的には必要だが、単年度での実績と『こういうことを考えて、こういう方向でやっています。』

というような動きのあることを示せばよいのではないか。

文化振興課で実績を集計することよりも、それぞれの事業実施課において、内発的に自主的にやっていく仕組み作りが重要です。それが文化事業と他の事業の違いではないか。

・川口副会長

文化事業は費用対効果という評価方法が最もやりにくい分野だと思う。地道な活動の芽を摘まないでほしい。むしろ行政はそういうもの支援してほしい。１、２年で目に見える成果が出なくても、３、４年後には事業の公開を行うようなものにも補助してほしい。

評価シート中に『短期的ではなく、長期的に』という評価が出てくるがそのとおりだと思う。文化事業では無駄があっても仕方が無いことだと思う。

・上利会長

文化事業の表彰制度があるが、選考基準が『実績による』となると、年齢が上がり限定されてしまうので、若手にもっとチャンスを与えてほしい。

『雨後の筍』ということわざがあり、中には枯れてしまう物もあるが、いろいろなものが出てきて、それらを援助するのが文化事業。それを無駄というのか、が問題点。

・川口副会長

成果主義の現代では難しい問題だと思う。８割駄目でも２割良ければ良しとするような評価をしてもらえると良いのだが。

・上利会長

『文化とはこういうものだ。』ということを説明して、理解してもらうことが静岡市の文化振興につながるのではないかと思う。

・高岡委員

中山間地の伝統文化を引き継ぐことについて、市街地で活動しているダンス関係者を連れていくなど、いくつかの試みはできると思う。

・事務局（文化振興課長）

文化財課では、市街地の人を集めて踊りを体験するという事業を実施している。

・川口副会長

静岡市美術館では無料の日や学校が小中学生を連れて鑑賞させるような事業はあるのか。

・事務局（矢澤）

基本、市の美術館は中学生以下及び 70 歳以上の高齢者は減額。

・川口副会長

ルーブル美術館は、水曜日の夜、働いている方のために無料としている。本当に良い企画展であれば、月一回くらいはそのような日があっても良いと思う。そういうことで愛好家が増えると思う。

・事務局（矢澤）

音楽でいえば AOI では、大学生以下千円となっている。静岡市美術館では、閉館時間を午後７時までとしているので仕事帰りでも寄ることは可能と思われる。

・上利会長

この懇話会のように、文化に関わる方が話をすると色々な意見が出てくる。

そういう雰囲気が文化にとってとても重要。みんながいいなと思う、そこに関心が生まれる。ポジティブなものに感じてもらいたいというのが文化の基本になる。そういう気持ちが行政の中に入っても、無くならないように考えてほしい。それは文化振興課のことだけではなく多くの課や文化団体、個人にも繋げていきたい。

・林委員

埋蔵文化財センターがあまり知られていない。立派な施設で歴史的な場所に建設されているので、その活用方法を検討してほしい。

・高岡委員

ギャラリーなど民間施設の情報も統計的なものに入れてほしい。

・上利会長

全体評価となるが、ひと言でいえば『概ね良好ですが、さらなる工夫が必要』ということでよろしいでしょうか。

・各委員：了承

・上利会長

本日の議題はこれで終了となります。

・事務局（矢澤）

その他意見について問うが意見無し。次回日程を調整したところ３月４日（金）午前 10 時とする。

以上を持って第１回静岡市文化振興ビジョン評価懇話会を終了とする。

本日の審議事項が、以上のとおり相違ないことを証明します。

平成　　年　　月　　日

静岡市文化振興ビジョン評価懇話会会長

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

議事録署名人：懇話会委員

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿